

【演題;7】

臨床研究

浅大腿動脈慢性完全閉塞病変に対する PTA の安全性及び有効性の検討

滋賀成人病センター 循環器内科

石井 充、岡田 正治、西尾 壮示、張田 健志、川田 好高

武田 普作、竹内 雄三、羽田 龍彦、小菅 邦彦、池口 滋

【目的】閉塞性動脈硬化症に対し、現在 PTA が施行されることが多い。その中で浅大腿動脈慢性完全閉塞病変 (SFA-CTO)に対する治療の安全性及び有効性の評価を目的とした。

【方法】2005年1月から2009年4月までの当院でPTAを施行したSFA-CTO 26病変を対象とし、初期成績及びTLRを含む長期成績を評価した。

【結果】全症例で再疎通に成功を認めた。24症例にステントの留置を行ったが、2症例は大腿動脈分岐部でありPOBAのみで加療した。特に重篤な合併症は認めなかった。閉塞病変長は $176 \pm 83\text{mm}$ 、総ステント長は $172 \pm 76\text{mm}$ であった。長期成績としてTLRは7.6%に認め、81%に症状の改善を認めた。また、ABIは治療前 0.62 ± 0.15 が 0.88 ± 0.25 に改善した。

【結論】SFA-CTO に対する PTA において安全に高い再疎通率が得られた。長期成績も良好で、有効な治療と考えられた。